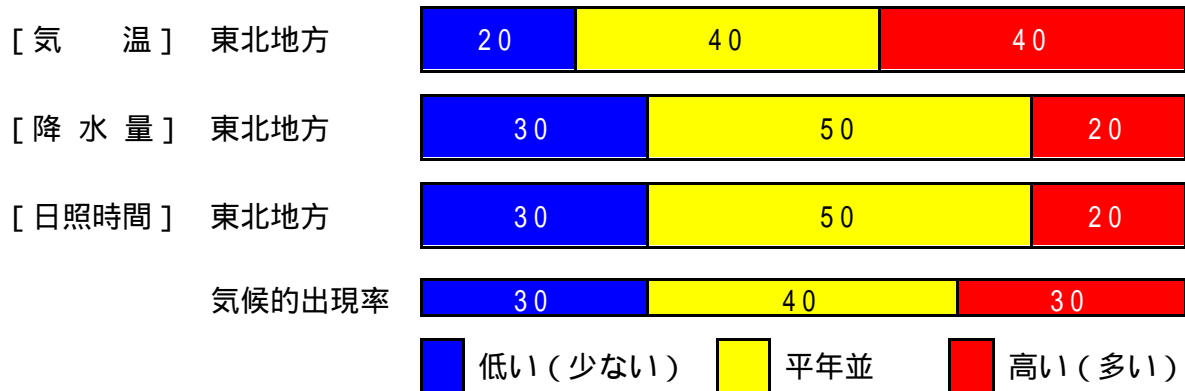


東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：6 月 24 日～7 月 23 日）

平成 12 年 6 月 23 日 仙台管区气象台

1．向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



[気 温]: 東北地方は「平年並」か「高い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40% です。「低い」の可能性は 20% と小さい。

[降 水 量]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50% です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は 30% です。「多い」の可能性は 20% と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50% です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は 30% です。「多い」の可能性は 20% と小さい。

2．予想される天候の特徴

（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

向こう 1 か月

東北地方は、前線や気圧の谷の影響を受け平年同様曇りや雨の日が多いですが、前線の活動が不活発となって晴れる日もある見込みです。また、東北太平洋側を中心にオホーツク海高気圧の影響を受け、天気のごずつく時期があるでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

平年の晴れ日数は、東北地方で約 13 日です。

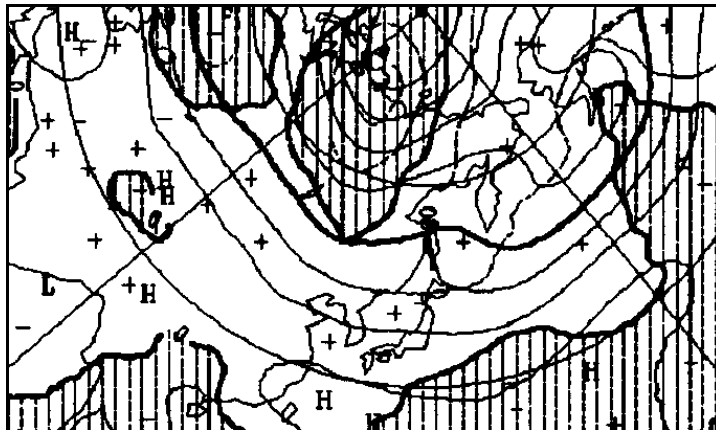
各予報期間の天候の特徴

1 週目…………… 期間を通して曇りの日が多く、期間の初めと終わりは気圧の谷や前線の影響で雨が降るでしょう。
(6 月 24 日～6 月 30 日) 平均気温は高い見込みです。
平年の晴れ日数は東北地方で約 3 日です。

2 週目…………… 前線の活動は不活発ですが、オホーツク海高気圧の影響を受け東北太平洋側を中心に平年同様曇りや雨の日が多いでしょう。
(7 月 1 日～7 月 7 日) 平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北地方で約 3 日です。

3～4 週目…………… 前線や低気圧の影響を受け、平年同様曇りや雨の日が多いでしょう。
(7 月 8 日～7 月 21 日) 平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北地方で約 6 日です。

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



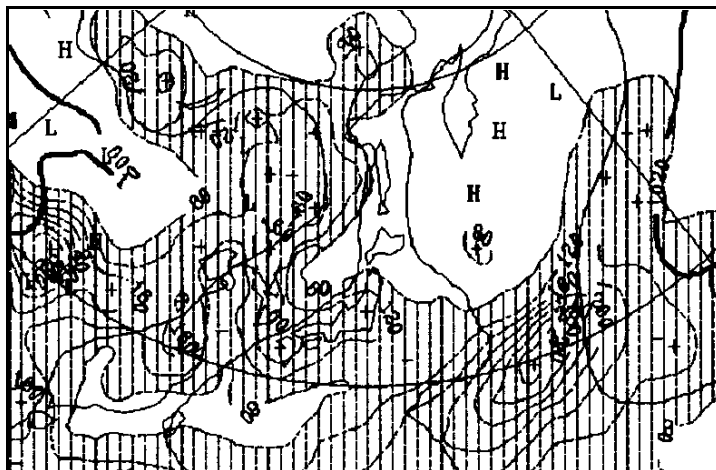
月平均の 500hPa 高度・偏差
（等高度線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差）

・ 500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近は正偏差、南東海上は負偏差で太平洋高気圧は平年に比べ西で強く東で弱い。

オホーツク海にはオホーツク海高気圧に対応する気圧の尾根が予想されているが、これは 1 週目に予想される気圧の尾根が強いのである。

週別（図略）に見ると、太平洋高気圧は 1～3 週目にかけて月平均と同様西で強く東で弱いが、4 週目には東で強まる。一方、オホーツク海高気圧は 1 週目をピークに 3 週目にかけて弱まる。日本付近の流れは 2 週目に弱い東谷となって前線の活動は不活発となる見込み。



月平均の地上気圧と降水量
（等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上）

・ 地上気圧と降水量

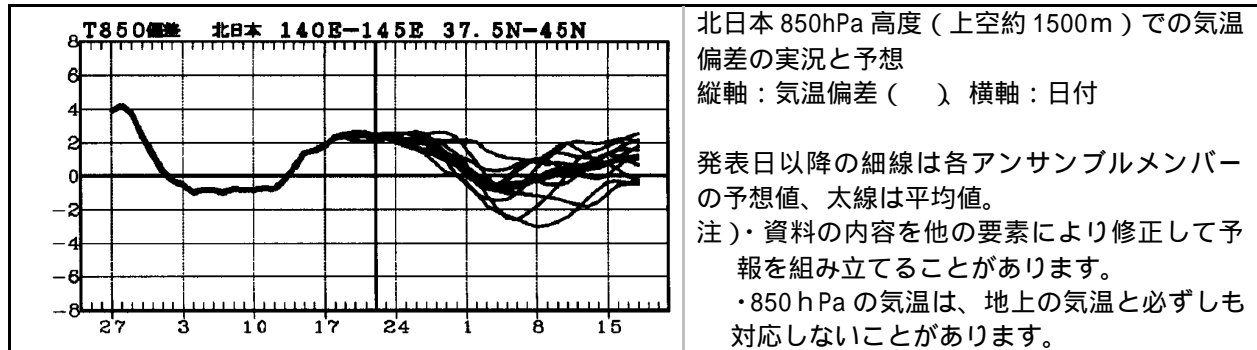
月平均でみると、日本の南には太平洋高気圧が張り出し、カムチャツカ半島の南にはオホーツク海高気圧があって北日本に張り出す。このため、本州付近は相対的に低圧部となっている。

降水域は、前線に対応して本州付近に延びるが、平年に比べ少ない傾向。

週別（図略）では、2 週目にかけては月平均と同様に、本州付近は低圧部で前線対応の降水域が東西に伸びるが、量的には弱まる。一方、オホーツク海高気圧は北日本に張り出す。3～4 週目はオホーツク海高気圧もはっきりせず、太平洋高気圧の西への張り出しも弱まる。

3．北日本 850hPa の気温平年差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温平年差は、アンサンブルメンバーの平均でみると、1 週目が高極で 2 週目以降は平年並か平年より若干高めで推移する。ただ、2 週目以降メンバー間のばらつきが大きくなるため、信頼度は普通程度。



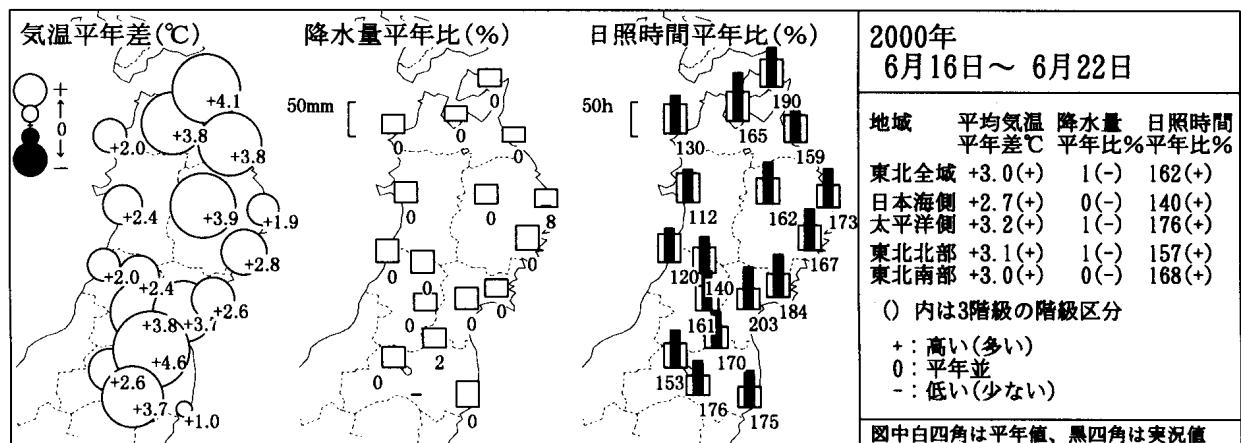
注：1 か月予報では、よく似た初期値から出発した 10 個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10 個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4．最近 1 週間（6 月 16 日～6 月 22 日）の天候の経過

この期間、梅雨前線は日本の南岸から南海上にあって、東北地方に影響したのは 17 日のみだった。このため、東北地方は高気圧に覆われ晴れて暑い日が多く、降水はほとんどなかった。

なお、東北北部では 5 月半ばから少雨傾向が続いており、19 日に「東北北部の少雨に関する東北地方気象情報第 1 号」を発表した。

平均気温は、東北地方で平年差+3.0 と平年より高かった。降水量は、東北地方で平年比 1%と平年より少なかった。日照時間は、東北地方で平年比 162%と平年より多かった。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）

5．梅雨入りについて

	平年の梅雨入り	昨年の梅雨入り	平年の梅雨明け	昨年の梅雨明け
東北南部	6 月 12 日頃	6 月 16 日頃	7 月 23 日頃	7 月 24 日頃
東北北部	6 月 14 日頃	6 月 16 日頃	7 月 26 日頃	7 月 26 日頃